

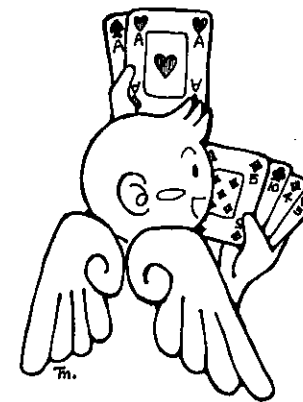
インクル

第38号 2005(平成17)年9月25日

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)
共生社会の実現を願う妖精「インクル」 「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました

目次 / Contents

9月27~29日の「第32回国際福祉機器展」に7年連続で出展 10月のドイツ「REHA」展では新パネルを展示 (山本修).....	2
夏休みに「共用品」を体験学習！ 「霞ヶ関子ども見学デー」に財団共用品推進機構も展示 (山本修).....	4
<ニュース&トピックス>	
(社)日本玩具協会、「共遊玩具カタログ2005年版」を発行 (高嶋健夫).....	5
メガハウスが“石内蔵型”の新型「オセロ極」を発売 転倒予防医学研究会が「推奨品」制度をスタート、第1号は「チャップリン」の 「GINZA」シリーズ.....	6
ライオン、「さわってわかる歯みがきの本 口臭編」を発行 花王、「暮らしのボイスガイド2005年版」を発行	
<この業界・この団体> (社福) 全国盲ろう者協会	
通訳・介助者の養成・派遣など、社会参加を促進 (高嶋健夫).....	7
<随想 私と共用品> 第17回	
「できない」を「できるようにする」ために (後藤明宏).....	8
<キーワードで考える共用品講座> 第37講	
「数字で見るバリアフリー第5回」(後藤芳一).....	9
<鴨志田厚子さんの談話室>⑦	
「非常識」こそが発想の出発点、今の年齢だからできることを探したい (森川美和).....	10
<事務局長だより> 「イライラ」をなくす心配り (星川安之).....	
11	
共用品通信・情報アラカルト.....	
10&11	
<わが社のエース>	
ホンダ「オデッセイ」(高嶋健夫)	
奥付.....	12



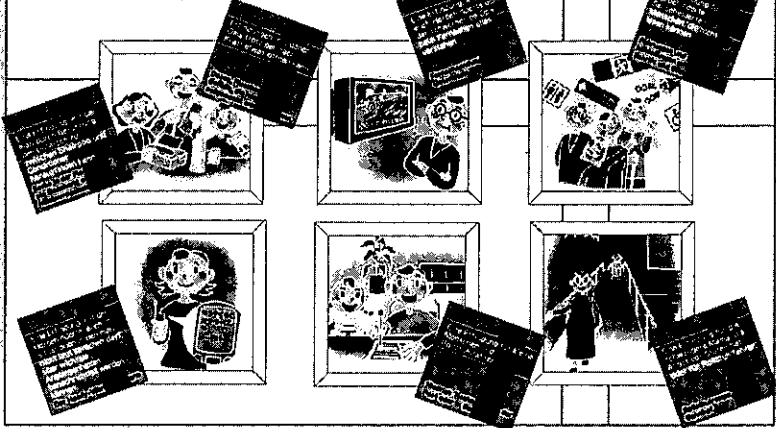
■みんなが楽しめる「トランプ」にする工夫とは？
四隅にマークが入れば、左利きの人にも使いやすくなります。大きな字で印刷されていれば弱視の人も見やすくなります。さらに、点字が付けば全盲の人でも使えます。カードを立てる専用台があれば、手の不自由な人も一緒にプレイできるようになります。共用品を造るヒントはたくさんあるのです。
イラスト：牧内 智子

財団法人 共用品推進機構

Durch "Kyoyo-Hin" gibt es folgende Erfindungen.

In verschiedenen Bereichen in unserem Alltag werden "Kyoyo-Hin" benutzt. Lasst uns schauen, welche Erfindungen das sind.

Was ist leichtzugängliches Design?



**「第32回国際福祉
7年連続で
9月27~29日、東京
10月のドイツ「REHA」**

- 第32回 国際福祉機器展 H. C. R. 2005
- 期 日：2005年9月27日(火)～9月29日(木) 3日間
- 開場時間：午前10時～午後5時
- 会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール
- 入 場 料：無料(登録制：事前または当日)
- 来場者数：約130,000人(予定)
- (財)共用品推進機構単独出展(交通エコロジー・モビリティ財団と隣接)
- ブース：東5-064(日常生活用品ブースエリア)

(財)共用品推進機構は9月27日(火)～29日(木)の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる「第32回国際福祉機器展(H.C.R.2005)」(主催：(財)保健福祉広報協会、全国社会福祉協議会)に、今年で7回目の連続出展する。昨年までの2年間は、アクセシブルデザインフォーラム(ADF)加盟の各団体と共同ブース出展してきたが、今年は機構が2ブース、(財)交通エコロジー・モビリティ財団が1ブースの隣接する3ブースで出展する。昨年より若

干スペースは縮小するものの、「日常生活用品ブースエリア」5ホール会場出入り口に面した有利なスペースを活用し、バリアフリーやアクセシブルデザインへの取り組みを効果的に紹介していく。

今年も、共用品を創り出そうとするメーカーの商品企画・開発担当者などに、共用品のコンセプト、商品開発のポイントをわかりやすく伝えると共に、機構がメーカーの製品開発やサービスに必要なさまざまな情報やノウハウを提供できることを積極的にPRすることができればと考えている。

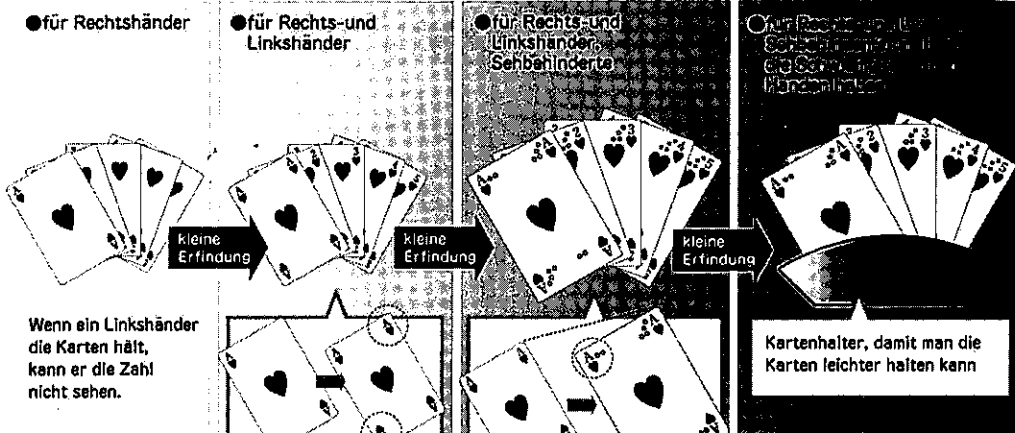
☆☆☆☆☆

続いて、ドイツの工業都市デュッセルドルフで10月12日(水)～15日(土)の4日間の日程で開催される「第16回REHA Care International 2005(国際リハビリテーション・介護機器展)」にも3年連続で出展する。同展は、米国の「MEDTRADE」、日本の「HCR(国際福祉機器展)」とともに、世界の3大福祉機器展の1つであり、去年は32カ国から800社以上の出展があり、約5万人の入場者が集まった。

**「機器展」に出展
ビッグサイトで
展では新パネル**

Mit einem Kartenspiel von Kyoyo-Hin kann jeder mit jedem zusammen spielen!

Was ist leichtzugängliches Design?



機構は、日本貿易振興機構(JETRO)ならびに日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)の支援を受けて、今年も新規出展の3社を含む日本国内の福祉用具メーカー11社との共同出展となる。

今年、「JAPANブース」が去年の1.3倍(192m²)に拡大、機構の展示スペースも約1.6倍と大幅に広がる。そこで、アクセシブルデザインの考え方をより視覚的・直感的に伝えるため、以前、子供向けに作成したパンフレットを参考に、展示パネルをイラスト豊富なデザインに一新。特に、欧米で馴染み深いランプを使った共用品化のイメージや日本工業規格(JIS)該当製品、コミュニケーション支援用絵記号のパネルなどを作成、見るだけでイメージしやすい工夫をしている。

製品展示では、24点のメイド・イン・ジャパンの「共用品」を紹介する。

今年も言葉や文化のバリアを越えて、1人でも多くの方々に「共用品文化」とその意義が伝わり、共感が得られるよう期待している。

やまもと おさむ (山本 修)

- 第16回 REHA Care International 2005
- 期 日：2005年10月12日(水)～10月15日(土) 4日間
- 開場時間：午前10時～午後6時
- 会 場：MESSE DUSSELDORF(メッセ・デュッセルドルフ) ドイツ・デュッセルドルフ
- ※展示面積 47,000m²以上
- 出 展 者：30カ国、850社ならびに福祉団体、障害者団体
- 来場者数：約50,000人
- 出展ブース：Hall No.5/Booth No.5 F11/F19(JAPAN BOOTH)
- 共同出展企業(11社)：アイシン販売(株)、アロン化成(株)、(株)コムラ製作所、セコム(株)、(株)ダンロップホームプロダクツ、(株)テクノスジャパン、(有)ハッピーおがわ、花岡車輛(株)、フランスベッドメディカルサービス(株)、松永製作所(株)、(株)ミクニ

Was ist leichtzugängliches Design?

Stellen wir uns mal vor, dass wir in die Stadt gehen!

In einer Stadt gibt es unterschiedliche Menschen mit verschiedenen Schwierigkeiten.

Menschen, die nicht sehen können. Manche haben einen weißen Stock.

Menschen, die nicht hören können. Manchmal haben sie Hörgeräte an ihren Ohren, oder sie reden mit den Händen(Zichensprache).

Menschen, die nicht laufen können. Manchmal benutzen sie einen Rollstuhl.

Menschen mit Behinderung haben Probleme mit folgenden Sachen.

Hilfsmittel für Menschen, die nicht sehen können: Sie können keine Autos am Bahnsteig hören. Sie können nicht wissen, wie groß ein Bus ist. Sie können gefährliche Situationen vielleicht nicht bemerken.

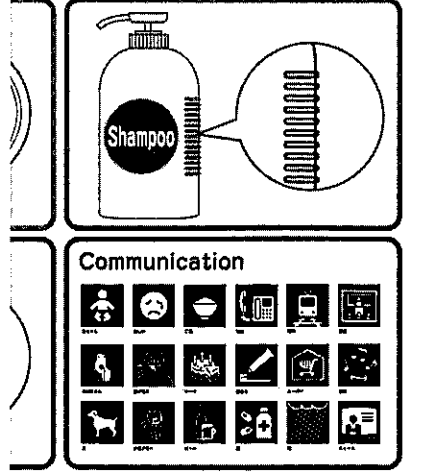
Hilfsmittel für Menschen, die nicht hören können: Sie können sich mit ihrem Rollstuhl nicht bewegen, wenn sie nicht hören können. Nur für die meisten Menschen sind die Straßen nicht für sie geeignet. Sie können nicht hören, wenn ein Auto über sie fährt.

Hilfsmittel für Menschen, die nicht laufen können: Sie können nicht gehen, wenn sie keinen Rollstuhl haben. Sie können nicht gehen, wenn sie keinen Rollstuhl haben. Sie können nicht gehen, wenn sie keinen Rollstuhl haben.

Japanese Industrial



Standard



Was ist leichtzugängliches Design?

Lasst uns nachdenken, was wir tun sollten, wenn wir bemerken, dass Menschen irgendwelche Schwierigkeiten haben.

Kinder, Opa, Oma, und Menschen mit Behinderung... Verschiedene Menschen benutzen alle nötige Dinge, aber es sieht aus als ob es viele Schwierigkeiten gibt. Hier siehst du Probleme und Ideen wie man sie lösen kann.

Lasst uns eine große Kyoyo-Hin Welt errichten!

Wir wünschen, dass die Kyoyo-Hin mit neuen Gefühlen und neuem Wissen bereichert. Und lasst uns die Wichtigkeit von Kyoyo-Hin verbreiten.

夏休みに「共用品」を体験学習!

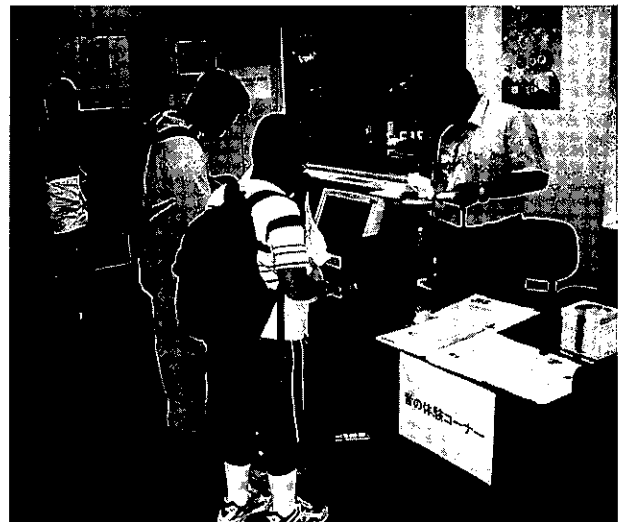
「霞ヶ関子ども見学デー」に共用品推進機構も展示



■実際に触れる共用品コーナー

8月24日(水)～25日(木)の2日間、東京・霞が関の官庁街に子どもたちの元気な声がこだました。文部科学省が広く社会を知る体験学習活動の機会として、毎年夏休みに企画している「霞ヶ関子ども見学デー」が今年も30の府省庁において実施された。

経済産業省では、「愛・地球博」や特許庁の展示コーナーに加え、新しい日本工業規格(JIS)など基準認証の仕組みや考え方を広く普及する展示の一環として、4月に熊本県で開催した「発明の日」イベントと同様に、(財)共用品推進機構をはじめ関連団体が協力して楽しい展示を行った。



■音の聞こえ体験コーナー



■コミュニケーション支援用絵記号で文章づくり

JIS規格書でも紹介されている代表的な配慮点をクイズパネルで見せたり、目の不自由な人にも遊べる音の出る共遊玩具やさまざまな配慮製品を実際に手に触れられるコーナー、「コミュニケーション支援用絵記号」を使った文章づくり、装具を使った高齢者の疑似体験や音の聞こえ体験、地球環境世界児童画など、それぞれのコーナーで子どもたちが歓声を上げたり、熱心に見入ったりしていた。

最終日は台風11号が関東に迫るあいにくの天候だったにもかかわらず、展示コーナーには2日間で延べ300人近い親子が訪れた。(山本 修)



■地球環境世界児童画の展示コーナー

●ニュース&トピックス

「共遊玩具カタログ」2005年版を発行 見やすく、楽しいデザインに一新

(社)日本玩具協会は、視覚障害児・者や聴覚障害児・者が一緒に遊ぶことができるおもちゃをまとめたカタログ「目や耳の不自由な子供たちも一緒に楽しめるおもちゃ2005」=写真=を発行した。年に1回定期的に発行しているもので、今回はより見やすく、楽しいカタログを目指して、表紙や各ページのデザインを全面刷新している。

収録した共遊玩具は従来とほぼ同数の111点。同協会では1万5000部を制作、すでに全国の盲学校や視覚障害者関連機関などに配布を終えており、一般の希望者にも郵送料自己負担(140円)で送付して

いる。また、点字版については同協会ホームページから無償でダウンロードできる。(高嶋健夫)

■申し込み・問い合わせ先

〒130-8611 東京都墨田区東駒形4-22-4
(社)日本玩具協会 共遊玩具推進部(担当・中田氏)
TEL: 03-3829-2513 FAX: 03-3829-2510
ホームページ: <http://www.toys.or.jp/>

(社)日本玩具協会



●ニュース&トピックス

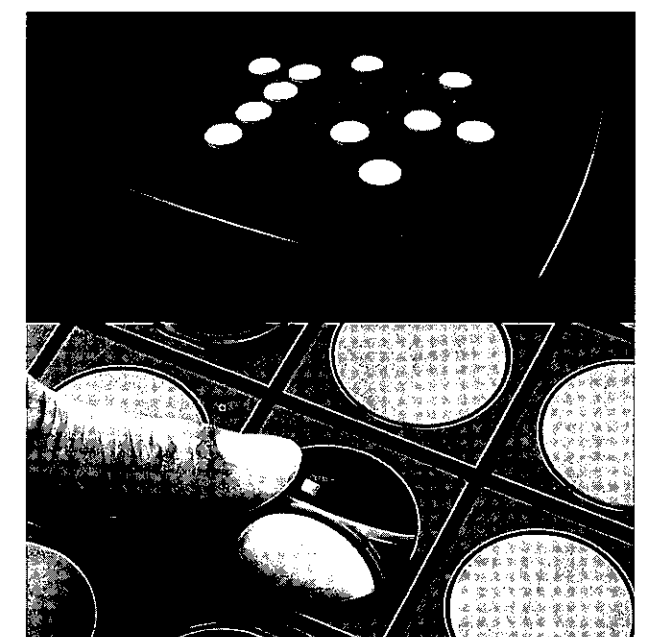
白から黒へ、黒から白へ、クルッと回転する新型「オセロ極」 初の「コマ内蔵型」、より使いやすく

もうコマを片づけたり、なくしたりする心配はありません——玩具メーカーのメガハウスは、新発想の「石内蔵型」の新型オセロゲーム「オセロ極(きわめ)」=写真上=を発売した。

白・黒の石(コマ)が盤面に組み込まれており、従来のように石を置いていく代わりに、石を置きたい場所を指で押せば、白や黒の石が現れる仕組み=写真下。このため、ゲームを終えた後、いちいち石を片づけて、しまう手間が要らないほか、石をなくす心配もない。また、白から黒へ、黒から白へとクルクルと石が変わる独特のクリック感が新しい楽しみを演出している。

また、共遊玩具の「オセロ」盤と同じように、色の違いが手触りでわかるように黒石はザラザラ、白石はツルツとした表面加工になっているほか、盤面上の枠も凸加工されている。同社には、これを使った視覚に障害のあるユーザーから「携帯用の小さいサイズもほしい」「他の盤ゲームにも応用して」といった反響が続々と届いているという。

サイズは300×300×35mm。希望小売価格は3150円



※「オセロ」は登録商標です。

となっている。

(高嶋健夫)

■問い合わせ先:

(株)メガハウス・パルボックス事業部 (TEL: 03-3847-1757)

ホームページ: <http://www.megahouse.co.jp/>

(株)メガハウス

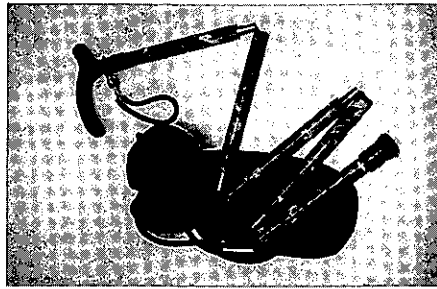
●ニュース&トピックス

転倒予防用品に独自の「推奨品」制度スタート 第1号は「チャップリン」の「GINZA」シリーズ

転倒予防の防止を目的に医療や福祉の専門家が組織する転倒予防医学研究会（世話人代表・武藤芳照 東大大学院教授）は、高齢者の転倒事故の防止に役立つ日常生活用品に対する独自の「推奨品」制度を始める。第1号には、東京・新宿でステッキ専門店「チャップリン」を運営するステッキメーカー、サン・ビーム（山田澄代社長、<http://www.chaplin.co.jp/>）のヒット商品、「GINZA」シリーズ=写真=が選ばれた。10月10日の「転倒予防の日」から本格的に運用を開始する。

「GINZA」は78～92cmまで身長に合わせて選べる豊富なバリエーション、使わない時には五つ折りにしてしまえる携帯性などが特徴。また、花柄、マホガニー調など色彩豊かでおしゃれなデザインも売り物になっており、1999年の発売以来の販売実績は7

転倒予防医学研究会



万本に達する。

同研究会では、推奨品とした理由として、身体機能

テストによる裏付けなど安全性、機能性に加えて、ファッション性を高く評価できる点を挙げている。

武藤教授によると、65歳以上の高齢者の実に3割が転倒した経験があり、骨折など重篤な怪我に至るケースも多いという。同研究会は予防医学・介護の最重要課題の1つである転倒事故の抑止を目的に、医療・福祉分野の研究者などが昨年結成した専門組織。学会的活動の枠を超え、一般社会に向けた情報発信など、より実践的な啓発活動にも力を入れている。「推奨品」制度はその一環として今年から新たに始めることになった。

（高嶋健夫）

●ニュース&トピックス

ライオン(株)

『さわってわかる歯みがきの本』、第3部「口臭編」を発行

ライオンは指でなぞれる「触図」と点字が付いた『さわってわかる歯みがきの本』の第3冊目となる「口臭編」をこのほど発行した。“ユニバーサルデザイン健康読本”と称して大日本印刷と共同で企画・制作したもので、墨字の文章は点字に、イラストは触図にすることで、視覚障害のある子供でも楽しく、わかりやすく歯みがきの方法を学ぶことができるようになっている。

歯の手入れ方法に関する情報をわかりやすく紹介した第1～2冊目に続くもので、今回は、口臭の種

類や予防方法などをまとめている。前回同様、(財)ライオン歯科衛生研究所が監修した。

点字印刷は、インクを立体に盛り上げる特殊技術を活用したシルクスクリーン印刷で行っている。ライオンでは全国の盲学校、点字図書館、リハビリ施設などに無料で配布した。

（高嶋健夫）

■問い合わせ先：ライオン(株)お客様相談室 TEL 03-3621-6611、ホームページ<http://www.lion.co.jp/>

●ニュース&トピックス

花王(株)

デイジー版CD『暮らしのボイスガイド2005年版』を発行

花王は、同社の新製品や暮らしに役立つ生活情報などをまとめた視覚障害者向けの音声情報CD『花王暮らしのボイスガイド2005年版』を発行した。今年で7版目で、全国の点字図書館、盲学校のほか、希望する個人にも無料で配布している。

今回は、昨年6月～今年5月の新製品など約75点の商品情報を収録。衣食住に関わる暮らしの科学を

わかりやすくまとめた「衣食住 彩エンス」も収めている。なお、「衣食住 彩エンス」については一般音楽CDにして配布する予定。

（高嶋健夫）

■問い合わせ先：花王(株)コーポレート・コミュニケーション部門社会貢献部（TEL：03-3660-7057、ホームページ：<http://www.kao.co.jp/>）

<この業界・この団体> (社福) 全国盲ろう者協会 通訳・介助者の養成・派遣など、社会参加を促進

目と耳が共に不自由な「盲ろう者」は全国に1万3000人から2万人前後いると推定される。一口に盲ろうの人といっても、障害の状況や程度はさまざま。大別して、全盲ろう、弱視ろう、盲難聴、弱視難聴の人がいる。共通しているのが、情報収集・発信やコミュニケーションに多大な困難を伴うこと。日常的なコミュニケーション手段としては、一般の「筆記」のほか、「指文字」や「触手話」、手のひらに文字を書く「手書き文字」などが用いられる。

全国盲ろう者協会は、こうした盲ろうの人の社会参加を促進する目的で1991年に社会福祉法人として認可・設立された。通訳・介助者の派遣事業、その前提となる通訳・介助者の養成事業を柱に、機関誌『コミュニカ』の発行など一般向けの啓発事業、通訳・介助用に必要な福祉機器の貸し出しなどの活動に取り組んでいる。

2013年に日本で「世界盲ろう者大会」開催へ

このうち、通訳・介助者の派遣は設立当初、社会福祉・医療事業団（当時）のモデル事業「在宅盲ろう者に対する訪問相談員派遣事業」としてスタート。2000年から国の助成事業として、全国各地で本格的に立ち上がった。現在、派遣事業は22都府県・10市で、養成事業は30府県・8市でそれぞれ実施され、これらの事業のコーディネート役となる交流組織「盲ろう者友の会」も全国35都府県に設立されている。同協会では全国をくまなくカバーできるように、さらに体制整備を加速させていく方針だ。

これに続く新たな重点目標として現在、力を入れ



年1回開催している「全国盲ろう者大会」。今年は8月に第15回大会が開かれた（写真は第11回大会の様相）

■(社福) 全国盲ろう者協会

設立 1991年3月
理事長 小村 武（ごむら・たけし）氏
事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル7階
問い合わせ先 TEL：03-3512-5056 FAX：03-3512-5057
Eメール：info@jdba.or.jp

ているのが、専門リハビリテーション施設の建設実現と就労促進だ。就労に関しては、平成16～17年度事業として初の実態調査を行っているほか、協会自身も今年4月に2人の盲ろう者を職員として採用。これをモデルケースにして盲ろう者の職域拡大を着実に実現させていくことを目指している。

他方、同協会では国際交流活動にも積極的に取り組んでおり、4年前に設立された「世界盲ろう者連盟」の次々回世界大会が2013年に日本で開催されることが予定されている。塩谷 治・常務理事は「これを機に、社会全体にいつかの理解と支援を訴えたい」と大会の成功を期している。

（高嶋健夫）

<アクセシブルデザインの普及に向けて一言>
「盲」でもない、「ろう」でもない、「盲ろう者」への理解促進を
塩谷 治・(社福) 全国盲ろう者協会常務理事・事務局長

世界大会の開催に向けて、盲ろう者自身による「当事者組織」の整備が急がれている。盲ろうの人たちが他の障害者と違う点は、通訳・介助者がいないと当事者間の意思疎通が十分に図れないということである。この課題を克服して、是非とも世界大会は当事者が主体となって成功させたいと考えている。

日常生活を支える機器・用具についても、盲ろう者向けの商品はまだまだ数少ない。振動式のめざまし時計など利用できる共用品はあるが、視覚障害者向けや聴覚障害者向けに開発されたモノを使える範囲で利用しているのが現状だ。

「盲」でもない、「ろう」でもない、「盲ろう」という希少障害の人がいるのだ、ということ世の中の人々にもっと理解していただき、支援の輪を広げていただきたい、と切に願っている。

（談）

「できない」を「できるようにする」ために

後藤明宏 (財)共用品推進機構評議員、認知障害支援プロジェクト代表

私は、現在は高齢者分野で福祉の仕事をしていいますが、それ以前は、知的障害のある方々への援助の仕事長くしてきました。

ある時、授産施設で、知的障害者とともにクリーニング作業を行っていました。シーツやタオル、ガウンなどをクリーニングし乾燥させた上できれいにたたみ、束にして納品します。その中に、フェイスタオルをたたんで10枚一束にする作業がありました。10まで数えることのできない方に、どのように10枚のたたんだタオルの束を作ってもらおうか。

いろいろ考えましたが、結局は簡単な方法で解決しました。片方の手に5本指がありますよね。指ひとつつまみごとに2枚のタオルをつまんでいくと、5本の指を使うと全部で10枚のタオルの束ができあがります。こうすることで、数えることが困難な人でも「タオルをたたんで10枚の束にする仕事」を上げることができるようになりました。

環境に働きかけて「できること」を増やしたい

また、別の作業所では、喫茶店を営業していました。そこでは自閉症の青年が多く働いていました。自閉症は、知的障害を伴うこともあればそうでないこともあります。共通して対人関係やコミュニケーションが非常にとりにくいという障害です。そうした障害者にウエイターをしてもらうことになり、どのようにすれば仕事がうまくできるかいろいろ考えました。この仕事はお客様に挨拶したり注文をとらなければなりません。試行錯誤の結果、ウエイターになった彼らには、まず挨拶をしてから、注文表をお客様にお渡しして、お客様に自分の注文を記入していただくという方法に落ち着きました。コミュニケーションが困難な人でも、お客様の協力があればウエイターの仕事が可能となりました。

こうした経験をして気づいたことは、「計算能力が低い」とか「言葉が話せない」とか「判断できない」といった能力の制限＝「できない」というものが、別の角度から見ると、あるいは環境の工夫をすることで、「できるようにする」ということでした。

福祉の仕事は、障害ゆえに多くのことができず、

社会に参加できにくい状況を見て、本人や、周りの人や、その環境に働きかけて、「その状況全体の中で本人ができること」を探し、増やしていくことがポイントとなります。



こんなことを試行錯誤し、漠然と考えていたときに共用品推進機構に出会いました。日常使う様々な道具を、健常者でも障害者でも便利なものに変え、相互にとって生活しやすい社会を創っていくという機構の考え方は、「社会」の側から自らの環境をリニューアルし、「できること」をより増やしていこうとするパワフルな運動に見えました。これには正直、驚き、そして、とてもうれしく思いました。

認知障害への支援の輪を!

現状の法律では「知的障害」は18歳未満に発症した知的機能の障害に限られます。しかし、知的障害を広く認知機能の障害ととらえるならば、いわゆる認知症や、成人期の事故や脳卒中などによる高次脳機能障害なども含まれます。いずれも記憶力や判断力、言語機能といった知的機能に障害を伴うからです。認知症においては、最近では症状を緩和させる薬の開発も進み、軽度の状態で長く在宅生活を送れる方も今後さらに増えていくでしょう。

「理解する」「認識する」「記憶する」「判断する」といった認知面でのハンディに対して、わかりやすい工夫が求められます。そして、そうした工夫は社会全体の人たちにとっても使いやすく理解しやすい工夫となるものと信じます。最近まとめられた「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則」などは、こうした配慮を普及・促進させる基盤となることでしょう。

今年4月に関心のある仲間が集まり、「認知障害支援プロジェクト」という会を立ち上げました。まずは「認知障害」という見たいにはちょっとわかりにくい障害について理解を深めていきます。興味やご関心のある方はどうぞ一度ご参加ください。

(題字は、中野奈津美・(財)共用品推進機構運営委員)

「数字で見るバリアフリー (第5回:小数)」

後藤芳一 (共用品推進機構運営委員、日本福祉大学客員教授)

共用品^{①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿} (小さい添え字^{①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}は、同様の用語が本講の第1～36講に既出であることを示す)の基本的なことは、鍵になる数字を通じて、押さえることができる。

0.05「人口増加率0.05%、人口減少はもうすぐ」

人口の前年比増加率は、2002年(10月1日現在、以下同じ)に0.11%、03年に0.14%、04年に0.05%(04年の人口は1億2768万7000人)と下っている。国立社会保障・人口問題研究所^㉑(中位推計)は02年0.12%、03年0.08%、04年0.05%、05年0.02%、06年▲0.02%と予想する。速報では、05年1-6月は減少した。通年でマイナスだと、予想より速く人口減少社会^㉒に入ることになる。

0.1「『報知音』の長さは、0.1秒から」

日本工業規格(JIS)^㉓(JIS S0013「高齢者^㉔・障害者^㉕配慮設計指針-消費生活製品の報知音^㉖」)に、受け付け・スタート音(0.1~0.15秒)、停止音(0.5~0.6秒)等の操作確認音や終了音、注意音のON/OFFのパターンや時間の長さが定められている。

0.5「『スイッチの凸記号』高さは、0.5mmから」

日本工業規格(JIS)(JIS S0011「高齢者・障害者配慮設計指針-消費生活製品の凸記号^㉗」)に、製品機能を始めさせる操作^㉘部分(例:スイッチをつける)には「凸点」(丸い記号)、終える操作には「凸バー」(棒状の記号)と定められている。凸点、凸バーとも、高さは0.5~0.8mm(小型機器では0.3mmでもよい)とされている。

1.29「合計特殊出生率はいま、1.29」

合計特殊出生率^㉙は、1人の女性が産む子供の数に相当(15~49歳で算出)。1971年に2.16だったが、89年に一段と下がり「1.57ショック」といわれた。2002年1.32、03年1.29、04年1.29という水準にある。

1.8「一般企業の障害者法定雇用率は1.8%」

障害者雇用促進法^㉚で、法定雇用率以上の身体または知的障害者を雇用しなければならない。一般の民間企業(常勤56人以上)は1.8%、特殊法人・独立行政法人・国・地方公共団体(同48人以上)は2.1%とされている。一般の民間企業の実績は、2002年(6月1日現在、以下同じ)は1.47%、03年1.48%、04年1.46%(04年度から制度改正され、改正前の計算法では04年は約1.50%)である。

2.07「静止人口の合計特殊出生率は2.07」

人口が増加も減少もしない状態(親と子の世代が1対1で置き換わる水準)を人口置換水準といい、それに必要な合計特殊出生率は約2.07である。

4.9「共用品市場の伸びは、年率4.9%」

共用品の市場規模^㉛(2003年度)は、2兆3743億円で、前年度比4.9%伸びた。過去3年間の年平均伸び率は2.7%、同5年間では10.1%であった。同じく「福祉用具(広義)」^㉜の市場規模は3兆3590億円で前年度比1.0%増。過去3年間の年平均伸び率は1.9%、同5年間では6.8%であった。

8.2「ガイド71のマトリクスは、8.2から9.5まで」

「規格作成における高齢者・障害者のニーズへの配慮ガイドライン」(ISO/IECガイド71)^㉝は、規格作成者が考慮すべき点^㉞20項目(項目番号8.2~8.21)と心身機能4項目(同9.2~9.5)を定め、それらを組み合わせたマトリクスを示している。

19.5「高齢化率は今、19.5%」

高齢化率(老年人口[65歳以上の人口]の比率)^㉟は、2001年(10月1日現在、以下同じ)に18.0%、02年18.5%、03年19.0%、04年19.5%と増えている。国立社会保障・人口問題研究所の予測(中位推計)では、2014年に国民の4分の1を超え(25.3%)、2041年に3分の1を超える(33.6%)。



かもし だ あつこ 鴨志田厚子さんの談話室⑦

「非常識」こそが発想の出発点 今の年齢だからできることを探したい

「昔は人生50年と言われていて、それ以上生きたら、ある程度のことば不便でもあきらめざるを得なかった。今は人生100年の時代。長くなった人生に対して、あきらめるのではなく、何かできることはないかと考えています」

常にポジティブに話す鴨志田さんもここ2～3年の間、自分自身の実感から、いろいろと考えることが増えてきた。

今まで180度回った手首が90度も回らない。コップを何気なく持っただけなのに、肘に“ピツ”と鋭い痛みが走る。今まで届いていた場所に、手が届かない（どうやら身長が縮んでいるらしい）。

「50代の頃までは、いくら高齢者の身になったモノ作りと言っても、実際のところはよく分からないことが多かった。その時期にならないと分からないのは当然。でも、今の年

齢だからこそ得られるデザインの視点や座標があるはずだ」

昔から、他人のやっていない新しいものを生み出すことが好きで、疑問に思ったことに対しては納得のいくまで答えを探した。もちろん、今もこの姿勢は変わっていない。この独創性と探究心が、ときに「非常識だ」と言われたこともある。

静岡県の工業試験場に就職して、初めて肢体不自由児の施設に見学に行った時に、部屋の暗さと笑顔のない子どもたちの表情に愕然とした。車いすの子どもは、無機質なコンクリートで覆われ、凸凹だらけの通路を移動している。傾斜でひっくり返る子もいた。

その様子を見て、さっそく当時の上司に施設の改善を提案した。決して大がかりな改造ではなく、日差しのある暖かい安全な雰囲気、ほんの少し変えるだけのアイデアだった。

しかし、提案はあっさり却下。当

時の鴨志田さんの仕事は、工業試験場での「輸出振興・米国へ売るためのモノ作り」。子どもの笑顔を取り戻すこと、住みやすい施設を作ることとは管轄外だったからだ。担当業務でもないことにまで首をつっこむなんて、確かに「非常識」としか言いようがないのだろうが、黙って見過ごすことができなかつたのだ。

「自分の仕事が大事なのはわかってはいたけれど、それでも、あの子どもたちの表情がずっと忘れられなかつた。もっと別のやり方があったのかもしれないが、あの頃はまだ若くて、そこまで頭が回らなかつた」

新しいアイデアや企画を生み出し、世に送り出そうとする時には、相手を納得させなければならぬ場面がたくさんある。

今回は、これまで数々の斬新なアイデアを生かしたモノ作りをしてきた鴨志田さんに「相手を説得するプレゼンテーションの仕方」などを聞きたいと思う。 (森川美和)

共用品通信

【トピックス】

○「第2回バリアフリー2005読み聞かせ会」開催

7月22日（金）に千代田区立お茶の水幼稚園（東京・千代田区）にて開催。障害のある人たちとのかかわりや共用品を通して、さまざまなことに気づく機会となった。（全8回、子どもゆめ基金の助成事業）

○ISO機関誌「ISO Focus Vol.2, No.7, July/August」

に星川専務理事が寄稿
「ISO/IECガイド71」制定にいたる日本の高齢者・障害者配慮への取り組みについて解説し、国際標準化機構（ISO）での新しい国際規格のルール作りの重要性和共に、障害者や高齢者向けのモノ作りにおける身体機能に関するデータベースの蓄積と整備が不可欠であると述べた。

【募集】

○「共用品ビジネス講座」実践女子学園で開講

実践女子学園生涯学習センターでは、平成17年度後期講座の「文芸・教養」19講座の中に、「共用品ビジネス講座 超高齢社会における企業の役割と課題」と題して、5回の講座を実施する。本誌編集長の高嶋健夫が2回の講座を担当するほか、西脇智子氏、渡邊武夫氏も講師を務める。日程は10月17日～11月14日までの毎週月曜日、19:00～20:30。問い合わせ先：0120-511-880、<http://www.syogai.jissen.ac.jp>

【委員会】

- 第1回トイレ内操作系設備の標準化に関する検討小委員会（7月11日）
- 第1回触知図表記方法における標準化に関する検討小委員会（8月11日）

「イライラ」をなくす心配り 「トミカ博」で教えられたこと

☆…おもちゃメーカー、トミーでは発売されて今年で35周年になるミニカーの「トミカ」を中心としたイベント「トミカ博」を6年前から各地で開催している。このイベントの責任者で、私と同期の久米井靖裕氏に声をかけられ、東京で行われている会場を訪ねた。

雨の平日にもかかわらず、「トミカ博」に向かうと思われる多くの親子連れの列について会場前にたどり着くと、入場券の発売受付が5つ。よく見ると、そのうちの1つが他の窓口に比べ低くなっているのに気づいた。

久米井氏に案内してもらった会場の入り口に、15年前に共用品推進機構を始めるきっかけの1つとなった「共遊玩具」の理念が、パネルで紹介されていることにまず嬉しくなり、中に入った。

☆…前半は、今までに発売されたすべてのトミカが見られる歴史コーナー、一般の人・専門家から寄せら

れたアイデアをモデル化した「夢のトミカ」コーナー。後半は7つの体験・ゲームコーナー、そして最後は、イベント会場のみで購入できる特注のトミカをはじめとする関連商品の物販コーナーへと続く。

こう書くと、他の子供向けのイベントとなら特別な違いがあるというわけではない。ただ、1つだけ、他のイベントではよく見かけるが、このイベントでは見られなかつたことがあった。それは「イライラした親の顔」。

不思議に思い、彼に秘訣を尋ねたところ、6年間で蓄積したノウハウのあらましを教えてくれた。

☆…イベントを始めた頃は、試行錯誤の連続。来場者の「イライラ顔」も多かった。彼は仲間のスタッフと、来場者のイライラ顔を、「楽しみの顔」に変えるには、と徹底的に話し合った。そして現場を毎日毎日見て、来場者の身になって考えることによって、何がイライラ顔につながる

星川
安之



事務局
長
だより

かを、教わったという。

例えば、コーナーから次のコーナーに行く間に、少々違和感のある、何も大きなスペースが現れる。素人目には、少しでもイベントに関する展示をと思うのだが、それを行うと、「ほっ」と息抜きする場が持たず、イライラが出口まで累積されていってしまう。

その他にも、随所に細やかな努力が蓄積されていて、心底感心した。会場入り口の「高さの違う券売り場」だが、これも、車いすを使用している来場者から教わったものだ。

「自分の楽しみだけ考えていると、アイデアは貧困になる。逆に、『より多くの人たちに楽しいこと』を考えると、無限にアイデアが湧いてくる」。

彼の言葉に、共用品・共用サービス普及との共通点を感じた時間であった。 (★)

共用品通信

【講演】

○（独）国立特殊教育総合研究所 短期研修視覚障害者コース講習（星川・森川）（7月1日）

星川、森川が講師となり、共用品・共用サービスの現状などについて開設した。

○墨田区夏季ボランティア研修会（7月22日）

区民などを対象にした研修会で、共用品・共用サービスについて、森川が講演した。

○財団法人建設研修センター「平成17年度ユニバーサルデザイン研修」（9月6日）

5日間11講座のUD研修の中で、「暮らしとユニバーサルデザイン」について本誌編集長・高嶋が講義。

【来訪・来所】

○未来塾学生3名 就業体験（7月26日～8月3日）

○日本女子大学学生1名 実務実習（8月8日～31日）

○実践女子大学学生3名 展示室見学（8月9日）

<訂正とお詫び>

7月25日発行の本誌第37号p10に掲載した「第6回法人賛助会員報告会」の記事で、依田晶男・内閣府参事官（現・国土交通省住宅政策課長）のお名前を、依田昌男氏と誤記致しました。依田様並びに関係者、読者の皆様にご迷惑をおかけ致しましたことを、謹んでお詫び申し上げます。

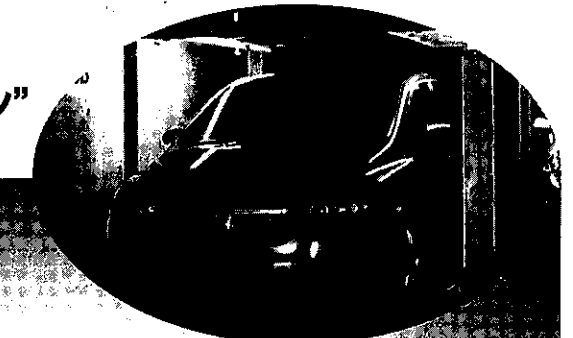
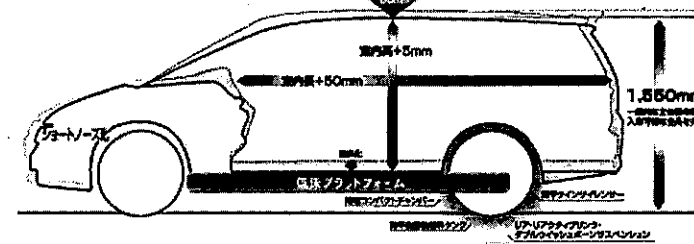
<読者の皆様へのお願い>

「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。



ホンダ「オデッセイ」 立体駐車場にも入る“低床ミニバン”

■低床プラットフォームの構造図



- ▽発売時期：2003年10月
- ▽外寸：全幅1800×全長4765×全高1550mm
- ▽希望小売価格：Mタイプ（FF、2.4ℓDOHC）230万円（税抜き）
- ▽問い合わせ先：本田技研工業㈱お客様相談センター（TEL：0120-112010）
- ▽ホームページ <http://www.honda.co.jp/>



□「オデッセイ」は「ミニバン」

居住性と走行性能を両立

ホンダが2003年10月に全面改良して発売した3代目「オデッセイ」は、3列シート7人乗りのミニバンながら、新開発の低床プラットフォームの採用により、一般の立体駐車場にも入る1550mmの低い全高スタイルを実現させた。



■「オデッセイ・アルマス」

従来のミニバンは家族みんなで外出したり、たくさん荷物を載せたりするのに便利な半面、“タッパ”が高く、見た目も大きいため、「運転しづらい」という声があった。小柄なお母さんたちには車庫入れがひと苦勞。その一方、ドライブ好きのお父さんたちには「一般の乗用車のように“走り”を楽しみたい」という不満も残った。

そんな要望を満たし、居住性と運転しやすさ・走行性能の両立を実現したのがこの低床パッケージ。同時に、足の不自由なお年寄

りや和服の人、子供などには乗り降りしやすい「人に優しい」設計にもなっている。

こうした点が人気を集め、「ミニバンの革命児」として7月末現在で累計16万379台を販売するヒットモデルになっている。

S、M、L、アブソルートの4タイプあり、いずれもFFと4WDがある。また、助手席がドア側に回転する助手席リフトアップシート採用の福祉車両「オデッセイ・アルマス」も設定している。

（高嶋健夫）

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル 第38号

2005（平成17）年9月25日発行
"Incl." vol.7 no.38

©The Accessible Design Foundation of Japan
（The Kyoyo-Hin Foundation）, 2005

隔月刊、奇数月に発行
一般頒価 1部1000円
（但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています）

※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行（財）共用品推進機構
郵便番号 101-0064
東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F
電話：03-5280-0020
ファクス：03-5280-2373
Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org
ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子
事務局 星川 安之
森川 美和
山本 修
金丸 淳子
布橋 智
天野 来未
高嶋 健夫

執筆・協力 後藤 明宏
（五十音順）後藤 芳一
牧内 智子
山本百合子
印刷・製本 ベスト・イーグル機/サンパートナーズ

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、財団法人共用品推進機構までご連絡ください。上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。